



『 乳がん検診について 』

昨年多くのメディアで取り上げられた乳がん。気になって検診に行かれた方も多いのではないのでしょうか。

マンモグラフィ・超音波等、どの検査が自分に必要なのかわかることが、病気の早期発見につながります。

マンモグラフィ検査は、病変が乳腺に隠れない様に乳房を圧迫しながら写真を撮る検査で、しこりとして触れる前段階の乳がんにみられる微細な石灰化が見つかります。また放射線を使用します。

しかし、日本人の約8割は高濃度乳腺（乳房内の乳腺割合が多い）であり、しこりの病変は厚い乳腺に隠れてしまう為、マンモグラフィ検査だけで全ての乳がんを見つける事は困難です。

一方で超音波検査は、しこりを見つけやすく、放射線被曝や検査中の痛みが無く乳腺濃度に左右されにくいですが、微細な石灰化の描出（びょうしゅつ）には不向きです。

そのため、初めての乳がん検診の際はマンモグラフィ検査と超音波検査を両方受けて、自分の乳房の状態を把握することをお勧めします。

そして2回目以降は、自分の乳房の状態を把握した上で、どの検査を受けるかを選択してはどうでしょうか。

いずれにしても早期に発見するために、定期的に検診を受けることが非常に大切です。



鹿児島厚生連

中央検査室主査（画像検査技師）

山 村 明 子